

〔釈文〕

治る御代ひやかし鯨

賑ふ江戸の花川戸、設り宅の繁昌を見物せんとぬら／くらと格子をのぞく大鯨／かむろ
 が見付てさゝやけば／おいらんハとんで出無理に／とらえんとすれど抜つ／くゞりつつらまら
 ねば／もしへ早くひやうた人を／持て来なましといへば／氣転のきゝし若イ者これで／おさへ
 れば大丈夫だと徳利を／持来れバ何の苦もなくおさへしゆへ／是ハふしきと能々見れバ鹿島の
 徳利だ

女郎「もしへ、ぬしやアあんまり／さますよ、このぢうもだしぬけに／きさつして大きわきを
 ／させなました／ミせ(店)も／にかい(二階)も／一ときに／ひねりばなしじやア／めがま
 へる(眼が回る)よウ／ぎりわるや

客「そのひげをなはして／くんねへ、それを／ぬきやア、おめへの／こゝろいきも／よつぼど
 ／かたひげだ